

2019/10/23【学習支援】第
34回 初年次教育セミナーを
開催しました

○「プロジェクト型学習（PBL）におけるお題設定について考える」

日時：2019年10月16日（水）15:00～16:30

講師：成瀬 尚志氏（大阪成蹊大学 マネジメント学部 准教授）

学習支援センターでは、2019年度の初年次教育セミナーの統一テーマを「学生の思考をうながすために」とし、教職員を対象に連続2回のセミナー開催をしました。

第2回目の今回は、10月16日（水）、大阪成蹊大学マネジメント学部准教授の成瀬尚志先生をお招きし、「プロジェクト型学習（PBL）におけるお題設定について考える - 課題解決アプローチとソーシャルアクションアプローチの検討 - 」と題して、プロジェクトの課題として一般的な課題解決アプローチについて検討し、その問題点について考えながら、オルタナティブとなる「ソーシャルアクションアプローチ」の可能性について検討する時間としました。

PBLにおいては通常、リアルな社会的課題が事前に設定・想定され、学生はその解決を試みる活動を通じて学びを深めていく、課題解決型アプローチが一般的ですが、成瀬先生は、課題解決アプローチから創出型アプローチの提案をされました。課題解決型アプローチは、既存の問題を解決すること、困っている人を助けること等の特徴があり、「マイナスからゼロ」へのアプローチと言えます。一方、創出型アプローチは、特に問題や困っている人がいるわけではありませんが、何らかのアクションを社会に向けて行うということで「ゼロからプラス」へのアプローチと成瀬先生は説明されました。その創出型アプローチの例として、先生は「ソーシャルアクション」を提示されました。

「ソーシャルアクション」とは他者と共に社会課題に向けてなされるアクションのことで、近年では「シャルソン（ソーシャルマラソンの略）」という活動が盛んに行われています。成瀬先生は、シャルソンにはPBLの重要なヒントが含まれていると見て、長く研究対象にされてきたそうです。先生が実際に関わった「嵐山シャルソン」について、その実施の様子、参加学生の様子、教員の関わり方はどのようなものだったか、豊富な写真や動画をもとに説明があり、課題解決型アプローチのオルタナティブとして非常に興味深く感じられました。

参加者からは、「課題解決型以外の形のPBLもありうるという点で参考になった」、「授業の中でソーシャルアクションのPBLを検討してみたい」等の声が寄せられました。（参加者：教員11名、職員5名）

